

高等
小學
帝國唱歌
大和田建樹著
上卷

103

162

79
K120.73
7
1

K120.73

7

1

大和田建樹著

高等小學
帝國唱歌
上卷

東京 博文館藏版



緒言

此書ハ尋常帝國唱歌につゞきて、やゝ高尚優美なる歌と
 曲とを集めたり。
 作曲ハ泰西の大家モザート、ビートルペン、ウエバー、シ
 ーベルト、ドニゼッティ等の諸氏を始として、其他本邦近
 時の諸家にも及ぼせり。
 撰曲作曲等の事ハ、辻則承君著者の爲めに取られたる事
 大あり。こゝよ謝す。

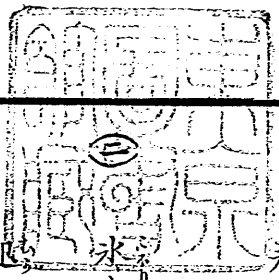
明治廿五年五月

著者しるす

高等
小學

帝國唱歌上卷目次

<p>春の歌……………三 如意輪堂……………五 月と我と……………七 ゆげの水……………九 ほたるほたる……………十一 時ハ翼……………十三 夕の雲……………十五 閣の籠……………十七 いもどの名……………十九 水蒸氣……………二十一 秋ハ來たり……………二十三 農家……………二十五 希望……………二十七</p>	<p>すみれ……………二十九 菅公……………三十一 樂しき時……………三十三 母の心……………三十五 夜あけ……………三十七 採集の歌……………三十九 鍛冶の歌……………四十一 池の蛙……………四十三 ちこ……………四十五 夕暮……………四十七 君恩……………四十九 竹馬……………五十</p>
---	--



①

春の歌

いづか霞むあけの気色

春こそ来し草つむ野邊よ

魚つ川は梅見り里よ

鳥きく谷

氷も雪もあどなく消えて

此世はもべて樂しき光

迎へよ春を雲雀も共よ

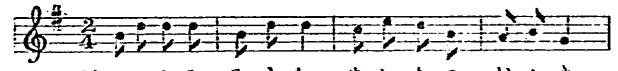
小蝶も共よ董もともよ

柳もさむら

春の歌

上三

春の歌



(一) いづか ぬすむ あしたの けしき
(二) コホリモ エキモ アトナク キエテ



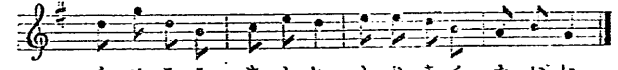
いづか そらに うきたつ ころろ
コノヨハ スベテ タノレキ ヒカリ



さるこそきたれ もるこそきたれ
ムカヘヨ ハルヲ ムカヘヨ ハルヲ



くさつむ のべに うせつる かハに
ヒバリモ トモニ コテフモ トモニ

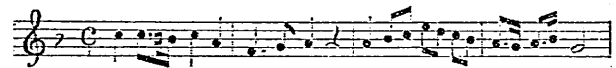


うめみる さとに とりきく たにに
スミレモ トモニ ヤナギモ トモニ

春の歌

上二

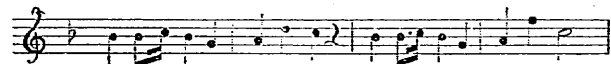
如意輪堂



(一)あさ-ひににかふ よし-の-の-や-ま-の
 (二)キエ-シハ ユキカ カス-ミ-カ-ハ-ナ-カ



さく-らの めいは ちや-しの こせき
 ミサ-ザキ サムキ ユフ-ベノ アラレ



とび-らに のころ やれ-りの うたハ
 ヨレ-ノノ ミヤニ マキ-リレブレノ



ちり-ても くちぬ ほま-れ-と-とら-に
 クノ-ナハ キエヌ ミテ-ラーノ-カベ-ニ

如意輪堂

上四

如意輪堂

②

朝日よ 匂ふ 吉野の山を
 櫻の名所 勇士の古跡

靡は残る 鉄の歌
 ちりても 朽ちぬ 譽と共よ

③

消えぬ 雪の霞の花
 陵とむき夕のあらし
 吉野の宮よ まぬり 武士の
 その名も消えぬ 御寺の壁よ

如意輪堂

上五

月と我と

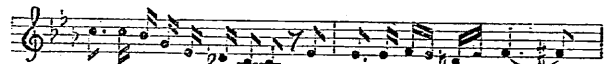


(一) さしひくしほいつづみのしらべ
 (二) シマカゲクロシナミガノスエニ

月と我と



いはみなみりたひこのひびき
 ツキノミシロシシホヂノヲチニ



ひるみしはまぢほせまくねりて
 ヒルミシツツフネイマハウセテ



ただふたりつぎとマレと
 タダナミトソラトワレト



ただふたりつぎとマレと
 タダナミトソラトワレト

上六

月と我と

①

さしひくしほいつづみのしらべ
 岩こす波ハ太鼓のひびき
 晝見一濱路ハせまくなりて
 二人月とそれと

②

島あげ黒一波路の末よ
 月のと白一汐路の遠よ
 晝見一釣舟いまハ失せて
 波と空とそれと

月と我と

上七

ゆげの水

(一) ぢやまに たぎる ゆげのみ づ
 (二) エダヨリ オワル リンゴノ ミ

こころと とめて みよやいと
 ココロヲ ツケテ オモヘヒト

ただがく もんの ちからかにて
 オモハバ カミノ テカラマデ

くおにも ふねと うかべたり
 ワガミノ モノト ナリヌベレ

ゆげの水

上八

湯氣の水

㊦

茶釜ちやがまに多おほきる湯氣ゆげの水みづ

こころを留とどめて見みよや人ひと

陸くわま舟ふねをうかべぬり

㊧

枝えだより落おつる林檎りんごの實み

心こころをつけて思おもへ人ひと

おまゝに神かみの力ちからまで

まが身みのものとなりぬべ

ゆげの水

上九

ほたる ほたる

(一) ほたる ほたる こちびよ
 (二) ホタルホタル トビコセ
 (三) ほたる ほたる ともせや

おの が さ さ に あ つ れ
 オ ノ ガ ソ デ ニ タ モ ト ニ ヤ
 か の が ほ び に と も せ

あ ち の み づ は に が き ぞ
 ク サ ノ ツ ユ ト こ ダ シ テ
 み づ も く さ ゑ あ た へ ん

こ ち の み づ は あ も き ぞ
 ツ ラ ノ ホ レ ト ア ソ カ シ テ
 と も よ ど も よ ほ た た ろ

ほたるほたる

上

ほたるほたる

ほたるほたる
 ほたるほたる
 ほたるほたる

あちの水はあまきぞ
 こちの水はあまきぞ

己が籠にあつまれ
 己が籠にあつまれ

己が袖よもとよ
 己が籠よもとよ

草の露とまじりて
 空の星とまじりて

己が籠よもとよ
 己が籠よもとよ

友よ友よ

ほたるほたる

上十一

時はつばさ

(一) とき は つば さ とびさる かげ
 (二) トキ ハ ヲガ ネ ツカハバワガ

たちまちに とびさる かげ たちまちに
 ヲノカギリ ツカハバワガ ヲノカギリ

はやく とほく いちどき一礼バ
 ツキヌ タカラ クニヲトマス

またそれにかへてそとぞとしみ
 ヲレヒトヲスークフ ヲレヲシミ

つかへ とびさる かげ たちまちに とびさる
 ツカへ ツカハバワガ ヲノカギリ ヲカハバ

かげ たちまちに はやき ときセ
 ワガ ヲノカギリ ツキヌ トキヲ

時はつばさ

上十二

時と翼

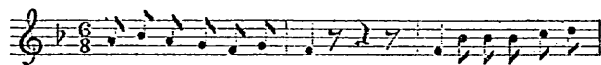
(一) 時とつばさ。飛び去るうけ。忽よ。早と遠と
 いちどきと去れが又。これよ。帰りとげ
 をみつる。飛び去るうけ。忽よ。早き時を

(二) 時、黄金。つばさは我世の限。つきぬ寶
 國を富ますべし。人を救ふが
 をみつるかへ。つばさは我世の限。つきぬ時を

時は翼

上十三

夕の雲



(一)きぎにうづま さ そらにそどり
(二)ハタアナビカセ ハシヲワタレ



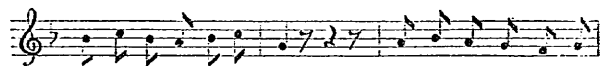
て あそぶゆふべの
テ イツルユフベノ



それぞたのしき いはむくさむ
ソレゾクノシキ ハナノネガホ



と たすけめぐりて
ニ ヨツユソソギテ



けふもうちつれ たにのくきやう
アケバカヘラン マタモタニマ



に か --- ヤー に
ニ ワガ --- ヤー ニ

夕の雲

上十四

夕れ雲

㊦

木きがいよりうづまさき空そらよをどりて

遊あそぶゆふべのわがをいのき

いはむくさむをいまけめぐりて

今日けふもうちつれの故郷こきやうよわがや

㊦

旗はたをなびうをはしをわらいて

出いづるゆふべの我わがをいのき

花はなの森顔の夜よ露つゆそのき

明あけがうへらん又も谷間やまよわがや

夕の雲

上十五

閨 龍

閨 龍

(一) おぎりも しられぬ うまはらに
 (二) ヒカゲモ クモリテ デミタカシ
 (三) くもちにつづげる ちみぎより

あらむみに いのちとすてたる ちやふつ
 カゼアテシ フナコクイカリハ ライトツ
 うみちより くらこで みえたれ いざやふ

たびち あらしま はやてよ ふらばふ け
 ヒセク ちやフノ ノアミヲ ナニトセ ン
 なーこ おおみよ くらきハ くがさく ぶ

閨 龍

上十六

閨 龍

限もあらぬ 海原は荒波よ
 命を捨てし 丈夫の旅路
 嵐上 應よ吹のぼふけ

日影さくもりて 波高し風あらし
 舟子の怒る雷とを響く
 丈夫の望を何とせん

雲路よつげ 波間より海路より
 陸を見えしれいざめや舟子
 あれ見よ黒さを陸よ陸

閨 龍

上十七

いもとの名

(一) かきねにに かふい ぐらのえ なく
 (二) レツカニツ ソグア シタノア メイ

ちびるあ げてかぜにまみ か
 モトノカ ホノス レヌホドニ 子

ほうちあ げて つゆにふ すい
 ムレルテフ ノ サメヌホドニ イ

かとまに たる そまのすがた う
 モトノナ ラバナニトヨバン イ

つして—やら—んぶ みのえし に
 バテヨ—イパーラ ハサノラト メ

いもとの名

上十八

いもとの名

垣根^{うきね}よ白^{しろ}ふいむらの花^{はな}
 唇^{くちびる}あけて風^{かぜ}は笑^{わら}み
 妹^{いもうと}よ似^にじつ花^{はな}のむがた
 顔^{かほ}うち垂^たれて露^{つゆ}は伏^ふす
 写^{うつ}してやらん
 文^{ぶん}の端^{はた}り

三
 ちづらにそと朝^{あさ}の雨^{あめ}
 妹^{いもうと}の顔^{かほ}のぬれぬるま
 ねむれる蝶^{ちょう}の覺^さめぬるま
 妹^{いもうと}の名^なをばなよと呼^よまん
 いむらばいむら
 花^{はな}の少女^{しょうじょ}

二
 垣根^{うきね}よ白^{しろ}ふいむらの花^{はな}
 唇^{くちびる}あけて風^{かぜ}は笑^{わら}み
 妹^{いもうと}よ似^にじつ花^{はな}のむがた
 顔^{かほ}うち垂^たれて露^{つゆ}は伏^ふす
 写^{うつ}してやらん
 文^{ぶん}の端^{はた}り

いもとの名

上十九

水 蒸 氣

水蒸氣

(一) た て よ そ の ゆ げ
 (二) コ ホ レ コ ホ レ ソ ノ ク エ
 (三) ヲ キ ヲ キ ヲ そ の ら ミ

の 不 れ の 不 れ そ の み づ
 フ レ ヲ フ レ ヲ ソ ノ ア メ
 と け よ と け よ そ の シ

く ル と り て え や フ れ
 ユ キ ト ナ リ テ ハ ヤ フ シ
 ヲ ゲ と ち り て え や た て

あ め よ あ め よ そ の あ
 ユ キ ヲ ユ キ ヲ ソ ノ ユ
 の 不 れ の 不 れ そ の ら

水 蒸 氣

(一) 立 て よ く そ の 湯 氣 の ぶ れ ー そ の 水
 雲 と な り て も 雨 降 れ 雨 よ く そ の あ め

(二) 氷 け ー そ の 雲 降 れ よ く そ の あ め
 雪 と な り て も 降 れ 雪 よ く そ の あ め

(三) 湯 氣 と な り て も 立 て と け よ く そ の 雪 の ぶ れ ー そ の 湯 氣

水蒸氣

秋も来たり

(一)あ き は き た り に し の そ ら に
 (二)ア キ ハ キ タ リ ナ カ キ ノ ベ ニ
 (三)う み と て た り や ま と こ え て

く も の ろ も か は り て
 カ ビ ノ オ ト モ カ ハ リ テ
 タ れ タ れ は つ か り

ま ん の ゆ み と は り し つ き
 ヲ ユ ニ ヤ ド ル ム シ ノ コ エ
 と も と さ そ ひ た や こ つ れ て

ゴ ほ の ま つ に お か り て
 ド コ ロ ド つ コ ロ キ コ エ テ
 モ た れ と た れ は つ か

秋は来たり

秋も来たり

(三) 秋は来たり 西の空よ
 雲の色せのほりて
 金の子を張り月も
 山の松まうりて

(三) 秋は来り 近き野邊よ
 風の音もりりて
 露まやどる虫の聲も
 どころぐ聞えて

(三) 海をわたり山を越えて
 友をさそひ親子つれて
 初雁
 初雁



秋は来たり

農家

③

門田の露よさらめ朝日

鳴子の音よむれよ雀

小牛をつれて野よゆよ子ども

鶏よびて餌をやろ少女

この一き八田舎やまきま農夫

今年の秋も八分のみのり

③

葉屋をのぞく老木の松よ

留守をむせて田よ出で暮らむ

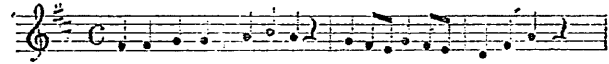
小犬よあそびをおくりて群よ

小鳥よ道よをひらきて森よ

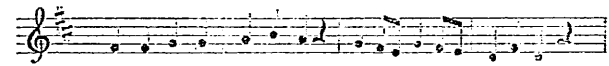
しづけよ八田舎あうぬの家業

肥えよ水よとまりの田よも

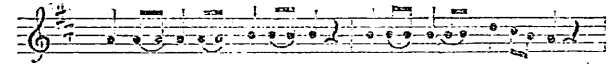
農家



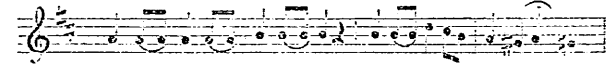
(一)かどだの つゆに きらめく あさひ
(二)ワラヤテ ノヅク オイキノ マツニ



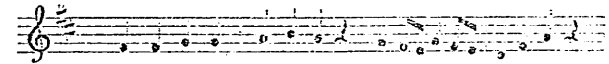
なるこの かとま むれたつ すずめ
ルスタバ サセテ クニイデー クラス



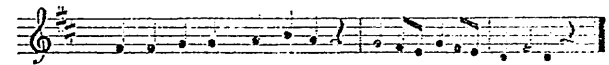
こうしや つれて のにゆく こども
コイ スハ アトテ オクリテ アゼニ



はいつり よびて 魚をやる とめた
コトリハ ミチテ ラキターモリニレ



のしまい めなふ やすきーのうふ
ヅゲキハ オナカ アカーブハーカダア



ことしの あきも ほちぶのみのり
コエタル ミヅハ トナーリノクニモ

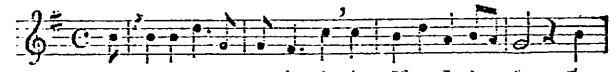
希望

(一) やまぎに はるかぜよき
 (二) ナニトナク シキツソラ
 (三) ものハみを たのしきいろ
 こくらに はうぐいすまぐ
 コトナク こトヨブソラ
 らのはみを たのしきこみ
 いまがそが さんばのせーつ
 イマゾワガ リヨカノジーキ
 いまがそが きばりのこーき
 いでよ いでよ
 はげめ はげめ

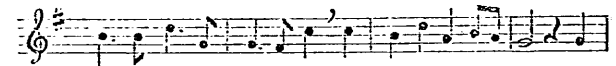
希望

柳やなぎははるのせふまき
 櫻さくらははるのせふまき
 いまぞわが散歩さんぽの節ふし
 いでよ
 何なにとなく浮うきよつそら
 どことなく人呼ひとよぶそら
 いまぞわが旅行りょこうの時期じき
 いでよ
 ものハ皆みなたのしき色いろ
 ものハ皆みなたのしき聲こゑ
 いまぞわが希望きぼうの時とき
 はげめ

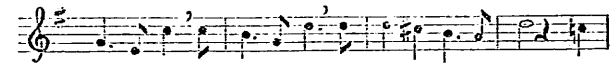
すみれ



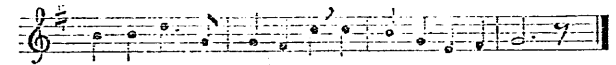
(一) すゑのつくしもかごにみちぬか
 (二) はるかノホシニモア リシハナヨム



ハベウよめなもかごにみちぬう
 カシノウタニモヨミシハナヨフ



へさのみちよハすみれつみてた
 コニモイツヨツツデノシタニツ



らととミタさんヨムひたうし
 ボミハノコレテフムナトモヨ

すみれ

上二十八

すみれ

㊦

末野の土筆も籠も満ちぬ

川邊の嫁菜も籠も満ちぬ

歸さのこちよハ董つて

こむとを満さん夕日たう

㊧

唱歌の本もありに花よ

むりの歌もよみ花よ

そこよも三つ四つ袖のよ

つぐまはのこちよ踏む友よ

すみれ

上二十九

菅 公

(一) ゆくすゑ くもる つくしの そら
 (二) イマナホ ココニ ナレテツミル

みやこの つきや いかならん
 セイヤウデンノ オモカゲヲ

こころよ かかる あらしの くも
 オモヘバ コヒシ 知ネンノ アキ

ながめに きほる なみぢの きりー
 オモヘバ コヒシ クモキノ ツキー

そがみは よしや しづむも と き
 ツキコツテラセ ミナソコ マデ

みやこの つきと いらにせ ん
 ツクハノ ウミノ キヨキミ ハ

菅 公

上三十一

菅 公

(一) 行末くもる筑紫の空
 心よかゝる嵐の雲
 我身はよや沈むも時
 都の月をいらよせん

(二) 今ならくよ馴れてを見
 清涼殿のおかけを
 わもへ恋ー去年の秋
 おもへ恋ー雲井の月
 月を照らせ水底まで
 筑紫の海のきよき身と

菅 公

上三十一

樂しき時

(一) あはれ うれしき時 あはれ うれしき日
 今日 麦畑 父と草取りて
 昨日 わらわ 来し 蝶と春風と
 (二) あはれ うれしき春 あはれ うれしき世
 宵の雨 晴れて 麦の穂も出でぬ
 雲雀 聲々よ われを慰めて

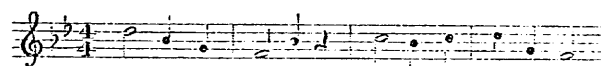
たのしきとき

(一) あはれたのしきとき あはれたのしき
 (二) アハレタノレキ ハル アハレタノレキ

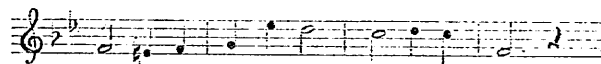
ひ げふもむぎばたけにちちと
 ヨ ヨヒノアメハハレーテムギノ
 くきどりてきのみまかれこ
 ホモイデーヌヒバリコエゴエ
 しふとほるかぜと
 ニワレーナグサーメテ

母の心

母の心



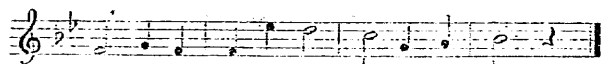
(一) いとてくる らせのひびき
(二) キヌフヌフ ハリノイソギ



ははは たびの えがこに
ハハハ トホキ コノミニ



おぜは はげし つゆは さむし
ホカゲ フラク ハリハ ホソレ



おもへ ははの こころを
オセへ ハハノ ツカレヲ

三十四

母れ心

三

糸を繰る 袴のひかき
母と旅の我子よ
風も烈し 露もさむ
おもへ母の心を

三

衣を縫ふ 針のいそぎ
母と遠き子の身よ
火影くらく 針をぬを
おもへ母のつれを

母の心



三十五

夜あけ

Musical score for '夜あけ' (Night Dawn) in G major, 2/4 time. The score consists of four staves of music with lyrics in Japanese. The lyrics are: (一) まこぐもなびきて (二) ヒバリモキコーエテ (三) かもめまきさの あけ白くやまのほ (ア) ケユクマツバハラ (ウ) けくうちバハラ よろこびさいはひ (ヨ) ロココビサハヒ (ユ) らこびきハハヒ ひかりーあーつめーて (ヒ) ビキーアアツメーデ (エ) らにーみーアにーも

夜あけ

夜あけ

横雲なびきて明けゆく山の端
喜び幸ひ光をあつめて

雲雀も聞えて明けゆく松原
喜び幸ひ響をあつめて

鷗も目さめて明けゆく海原
喜び幸ひ空よ水よも

夜あけ

鍛冶の歌

鍛冶の歌

(一) た え ち ふ り ち ち の ひ び き
 た え ち ふ り ち ち の ひ び き
 (二) ゼ ユ ル オ フ キ イ ビ ハ オ ヤ ノ ユ タ
 ゼ ユ ル オ フ キ イ ビ ハ オ ヤ ノ ユ タ

た の し る ぼ よ き の ふ ら け
 タ ノ レ ワ ガ ヨ ア シ タ モ ク

ふ む た の し る ぼ よ た
 レ モ タ ノ レ ワ ガ ヨ タ

の し る ぼ よ ト ツ テ ン カ チ カ チ
 ノ レ ワ ガ ヨ ト ツ テ ン カ チ カ チ

ツ テ ン カ チ ト ツ テ ン カ チ
 ツ テ ン カ チ ト ツ テ ン カ チ

上四十

鍛冶の歌

③ 絶えを振りあぐる槌の響き
 絶えを飛び散る槌の火花
 樂一我世はまのふも今日も
 トン トツテンカチカチ
 トツテンカチトツテンカチ

③ まゆるおき火の家のおづり
 にさる鞆を親の形見
 樂一我世はあーたもふれも
 トン トツテンカチカチ
 トツテンカチトツテンカチ

③ 髪は散りうる灰を友よ
 顔はまみれしる煤を友よ
 樂一我世はあふべもあさも
 トン トツテンカチカチ
 トツテンカチトツテンカチ



鍛冶の歌

上四十一

池 乃 蛙

池の蛙

(一) きーとのやなぎのえだやたかきーいー
 (二) キーレノヤナギハゲニモターカレーイー
 (三) めーざすやなぎのえだハえたりーぎー

けのかはづのせいやひくきーと
 ケノカハツハゲニモヒクレーオ
 たるためさんうへのえだにーと

びつつおちつつためすいーくたびぞきー
 チツツいびーツツモハヤツカレタリキ
 びつつおちつつこころただひーとつあー

しのやなぎのえだやたかきー
 レノヤナギハゲニモターカレー
 ざすやなぎのえだハえたりー

上四十二

池の蛙

㊦

岸の柳の枝や高き
 池の蛙の背や低き
 飛びつ落ちつ

くちめを幾度ぞ

岸の柳の枝や高き

㊦

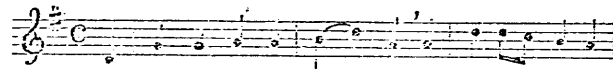
岸の柳はげまも高き
 池の蛙はげまも低き
 落ちつ飛びつ

池の蛙

上四十三

ちご

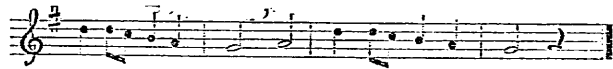
ち
ご



(一) はならてみたーすにはのーまぶ
(二) アイモテミターステゴノーココ



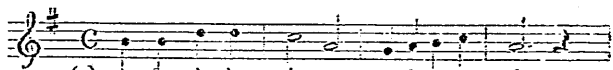
きつやもててらーすそ
ロユクスエトメールチ



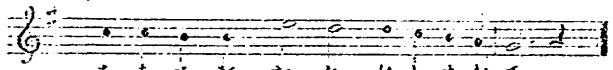
ののーくさむはるせーみせで
ゴノーツキヒハルラーミセテ

夕ぐれ

上四十五



(一) ふんちにおくうしのこと
(二) アトニハタカツキヒトツ
(三) 日ふべのかねふとびれて



あえてとせれはしすむて
シツケキバヲテラスナリ
ヤサミエいえとハサベテ

泡の蛙

さよふつりしり

岸の柳はけまも高し

㊦

目ざん柳の枝を得しり

まよふしりあさん上の枝よ

飛びつ落ちつ

さよふつりしり

目ざん柳の枝を得しり

上四十四

兒

① 花より満たし處の露はなよりみちたしところのつゆ

露を照らす園の草葉つゆをてららすのこのくさば

春を見せてはるをみせて

② 愛もて満し心あいもてみちしこころ

行末富める児の月日ゆきすえにふるこころのつきひ

春をこめてはるをこめて

夕暮

① 家路より牛のこゑいへぢよりうしのこゑ

暁を折れ橋をきてあけぼのををりはしをきて

② あとよき月ひとつあとよきつきひとつ

静けき野邊を照らすなりしずけきのへばをてらすなり

③ かふべの鐘かふべのかね

休まいま世はずべしやすまいまよはずべし

君恩

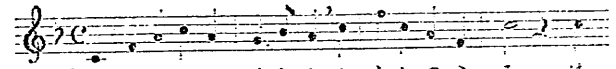
三

山路^{やまぢ}は日暮^{ひぐ}れぬ樵歌^{せうか}の聲^{こゑ}
 花^{はな}を今宵^{こんや}のあふ^{あふ}ト^トよ^よして
 君^{きみ}が代^よの澤^{さわ}はいづくまでも

三

波路^{なみぢ}は日暮^{ひぐ}れぬ漁笛^{いさぶす}の聲^{こゑ}
 月^{つき}を歸^{かへ}さの^のいづべ^{いづべ}ト^トよ^よして
 君^{きみ}が代^よの澤^{さわ}はいづくまでも

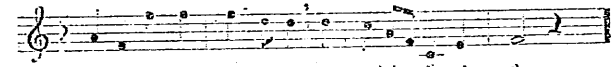
君恩



(一) やまぢはひぐれぬせうかのこゑは
 (二) なみぢはクレタギョテキノコエツ

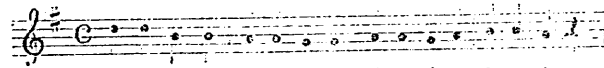


なとぞこよひのあふじにしーて
 キラツカヘサノレルベニシーテ



みがほのたくはいづくまでも
 ミガヨノタクハイヅクマデモ

竹馬



(一) たけうまをらべてすーすめともよ
 (二) タケウマツツケテワラセカハダ



ここそうちがいふくぬすかゆま
 キミコンカダハラワレハヤサキ

竹馬

竹馬ならんぞ進め友よ
 宇治川おくれどうけよ
 竹馬づけて渡せ川を
 君こそ梶原我ハ佐々木

明治廿五年六月廿二日印刷
 明治廿五年七月四日出版

(高等帝國唱歌上卷)

定價金拾一錢



著者

大和田建樹

發行兼印刷人

大橋新太郎

日本橋區本石町三丁目十六番地

東京々橋區采女町九番地

印刷所

博文社

東京日本橋區本石町三丁目

發兌書林

博文館

